

こんどう

## 近藤 さえ子の 小枝通信

一本の小枝がつなぐお母さんの声

一本の小枝で結ぶ地域の世代

一本の小枝が渡す地域と区政

No.31 2018年1月発行

2018年が始まりました。皆様にとって明るい年となりますことを祈願いたします。

現在、中野駅周辺の大規模再開発や西武新宿線沿線の再開発計画が進んでいます。これからどのような街ができるのか見守るところですが、その一方、区民の施設は次々廃止されます。

全廃計画である児童館は、子どもから大人まで区民の拠り所でした。乳幼児親子が集い、ランドセルを背負った子どもたちが「お帰り!」の声に迎えられるところ。子育てを支えてもらった保護者が感謝の気持ちから「地域で子育て」に参加する拠点。これからの地域を担う子どもたちが、町会や商店街など多くの大人たちに育んでももらえるところ。大切なのは、建物ではなく、その機能なのです。



地域コミュニティーは、住民が関わり合い、時間をかけて育んで行くもの。トルコの人々は家を買う時「ご近所を買う」と言うそうです。それだけ、近所の繋がりが、協力、地域を大切に思っているのです。

「地域で子育て」の素晴らしい循環が断たれないよう、私たちはどのように支え合って行くのか、考えなくてはならない年になると思います。

本年もよろしくお願いいたします。



## いま中野区は!



## 中野駅周辺まちづくり

12月7日の中野駅周辺・西武新宿線沿線まちづくり調査特別委員会において、「区役所・サンプラザ地区の再整備にあたり専門家集団との意見交換の場を設置することを求める陳情」(前回の修正)が、一般社団法人東京都建築士事務所協会中野支部から提出されました。

中野駅前のアリーナ建設や駅周辺の街づくりに対し、区民が意見を言う機会はこれまでなく、「区民が意見を言える場はあるのか」と私が質問すると、担当職員は「意見があれば聞くので、言いに来てください」との答弁でした。しかし、事業者と区の間だけで後世に残る大きな計画が進むことに対し、危機感を抱く専門家からこのような陳情が出されたのであり、計画策定の段階で区民の声を聞く努力をするべきだと考えます。

また、スポーツ庁が実施する「スタジアム・アリーナ改革推進事業」に「中野駅新北口駅前エリアにおけるアリーナ整備に係る企画提案」が採択されました。11月30日この事業に対し約470万円の補正予算が議会で採択された後に、事業内容が報告されるとは本末転倒、あまりにもひどい行政仕事です。

区民に何も知らされないまま、10か年計画(第3次)等の計画になかった事業が次々示され、あわただしく補正予算対応になり、短い審査時間で区民の貴重な税金が使われて行きます。

## 温暖化対策推進オフィス(環境リサイクルプラザ跡施設)その後

平成23年、区民が活用していた環境リサイクルプラザ(中野)を廃止し、その建物を環境問題に取り組む事業者に貸与することになりました。当時私は、「環境施策に取り組む借り手が見つからない場合はどうするのか」と質問しましたが、予想通り貸与先は見つからず、名称だけは「温暖化対策推進オフィス」としながら、ビートルズの写真展やカフェなどを展開する事業者に貸与してきました。区は、「賃貸料を環境基金に積み立て、エコポイントの経費にも使い、環境政策に貢献してきた」と言います。

本年3月の賃貸借契約終結にあたり、平成28年4月の10か年計画(第3次)では土地売却計画でしたが、平成29年8月、保育園と区民活動センターにする計画に変更、11月「不要設備撤去、外壁・内装改修の設計を行う」として880万円の補正予算を組みました。しかし、12月現在、まだ保育園以外の活用は決まっていません。

区民の大切な施設を、その時その時の思いつきで民間業者に貸与する無計画な施策では、桃丘小学校跡施設を巡り事業者との間で裁判沙汰になったことは記憶に新しいところです。

この温暖化対策推進オフィスも、区民から居場所を取り上げ、民間に大盤振る舞いで施設を貸与しただけで終わりました。


<http://saekonikki.exblog.jp/>


日々の活動をお知らせしています。



## 12月21日・22日

和歌山県で開かれた「地方公共団体職員等犯罪被害者等施策に関する研修」に講師として招かれました。

警察庁長官官房参事官阿波涼子氏の挨拶の後、私が「支援の必要性について」講演、次に被害者支援に精通した中野区職員が「被害者ノートを活用した犯罪被害者相談対応について」を説明しました。

被害者支援にどう取り組むか模索中の多くの自治体職員にとり、中野区の取り組みや「被害者ノート」の解説は、分かりやすいお手本となっています。

「中野区のような生活支援の仕組みができていることは素晴らしい」と高い評価を頂き、大変うれしく思いました。

- 22日は本州最南端の和歌山県串本町で昨日同様の研修会を行いました。
- ここ串本町には、日本とトルコの友好関係の原点となる実話があります。
- 1890年(明治23)大島樫野崎沖で、オスマン帝国初の親善訪日使節団を乗せた軍艦「エルトゥール号」が台風により座礁沈没し587人が亡くなりましたが、大島島民の懸命な救助活動で69名を救出しました。
- この献身的救助活動はトルコで語り継がれ、イラン・イラク戦争時の1985年、イラン脱出が困難となった日本人約200人を、トルコ政府は自国民より優先して救出してくれました。危機に際し誰もが助け合う、時と空を超えた恩返しでした。





## 平成29年第3回定例会

一般質問 9月9日

### アウトリーチチームの役割について

「中野区地域包括システム推進プラン」に即し、アウトリーチチームが活動を始めた。支援が必要な人を地域包括支援センター等につなげ、支援活動者を探す活動をする。

これまで町会、民生児童委員や他の区民も、支援が必要な高齢者について地域包括支援センターに情報を寄せてきたが、まずアウトリーチチームに知らせる必要性はどこにあるのか。

中野区で唯一の疾患医療センターはこの施策に期待していたが、中野区のアウトリーチチームは、地域イベントや祭りに参加し情報を得る段階止まりであると嘆いている。

現チームは児童館長を含むが、児童館全廃で、大切な児童館機能である子どもたちを適切な支援機関に繋ぐ役割の低下を危惧する。

地区担当のアウトリーチチームの専門性を高めるため、研修体制を整え、職員のスキルアップを図る取り組みが必要であるとする。

【答弁 区長】

アウトリーチチーム活動は、従来の申請主義による窓口対応では見落とされがちな人への積極的な働きかけを可能とするものである。町会や民生委員による情報提供はこれまでどおりやっていただく。子ども情報の収集は、キッズ・プラザと区立学童クラブの所長が職務を担う。多職種の専門性を生かすよう強化、改善を重ねる。

### アウトリーチ活動とは

アウトリーチとは「手を差し伸べる」の意味。本来、福祉におけるアウトリーチ活動とは、精神疾患、鬱、引きこもり等、表に現れない支援を必要とする人々を専門医療機関等に結びつける、迅速な対応を求められる活動である。



総括質疑 9月22日

### 1. 人材活用について

【近藤】 アウトリーチチームの保健師は、すこやか福祉センターの仕事と兼務である。また、認知症対策や区民健診後の健康管理等には、保健師は配置されていない。配置や働き方に課題があるのではないかと。受付業務や狂犬病の受付、電話番号と兼務では専門業務に従事できない。

【石濱南部すこやか福祉センター所長】 アウトリーチチームでの役割も含め、保健師は健康なまちづくりの推進、災害時健康危機管理体制の役割等に取り組む。すこやか福祉センターでの保健師の働き方については組織のあり方も含め、役割が果たせるよう進める。

### 2. 特別支援教育について

【近藤】 特別支援教育について、教育委員会は保護者への理解促進は欠かせないと考えているが、保護者は日常的に不安の中にいる。何年にもわたり理解促進が図られない状況に対し工夫が必要ではないかと。今年度から全小学校に特別支援教室を導入した目的は何か。きめこまやかな特別支援教育のため、さらなる努力が必要である。

【石崎教育委員会事務局副参事（学校教育担当）】 研修会開催やリーフレットの作成で各学校での周知等を行っている。全小学校に教室を設置したことで、特別支援教育が身近なものとなり、保護者全体の理解を深めるきっかけになったと考える。

### 3. その他

【近藤】 四季の森公園の中野中に隣接する拡張公園では、さまざまなイベントが開かれ、大音量やにおいなどで大変迷惑を被っているとの声がある。

【千田都市基盤部副参事（公園担当）】 拡張部については、今後も中野駅周辺のにぎわいに資する活用をしたい。中学校への配慮については、今後、防音措置とルールの強化を含めて検討する。

## 平成29年第4回定例会

一般質問 11月30日

### (1) 学童クラブの待機児童対策について

保育施設の緊急待機児童対策として、公共施設（公園）7か所に区立の認可外保育園を作る区の計画に区民から憤りの声があがるが、区は「こんなに急激に保育需要が伸びるとは想定外」と弁解する。

学童クラブの待機児童対策についても、区民は不安を感じているが、緊張感はない。区の対策は、学童クラブの定員を増やせるところまで増やし、入りきれなくなると民間学童クラブをあわせて誘致する。さらに待機児童が出たら、とりあえず学校の中のキッズ・プラザを利用してもらう方法である。現在保育園に通う子どもたちが学童保育を利用する時になって「こんなに学童人口が増えるとは想定外」とまた言うのか。

民間の学童クラブは複数の所で空きがあり、区立学童クラブの待機をしている児童が多くいる現状をどのように考えるのか。

現在の和光西と若宮児童館の学童クラブ児童は、美鳩小学校新築で半分は民間学童クラブに割り当てられる。そこで現在の若宮児童館を、子育てルームと学童クラブ、一般の小学生も自由に集える地域の子どものための拠点として有効活用してはどうか。そこに区職員を置くことで、アウトリーチチームの効果も発揮される。区の見解を問う。

### (2) 子どもたちの放課後の居場所について

港区の有栖川公園に隣接する複合施設の中にある「本村保育園」「麻布子ども中高生プラザ」「高齢者施設ありすいきいきプラザ」を視察した。この施設では0歳から100歳までが関わりふれあいながら過ごしている。「港区は財政的に豊か、中野区とは違う」との声もあるが、保育拠点、子どもの成長に必要な自由な遊び場、さらに高齢者の憩いの場、地域区民が本当に必要とする施設を用意することの大切さを行政が理解していることが大事である。

児童たちが、長い夏休みの期間も含めて1年を通じ、小学校の中だけで過ごすしかない計画を進めているのは、23区でも中野区だけではないか。子どもたちの成長期に多くの大人が関わり、見守り、地域で子育てする環境が必要である。

【答弁 区長】

統合で廃止となる旧学校区に民設学童クラブを誘致して定員を確保する。民間の設置初年度から多くの児童の利用が得られるよう区としても広告、周知を強化したい。

【答弁 野村地域支え合い推進室長】

現若宮児童館等区有施設を活用し、民設学童クラブを誘致する計画だが、区の職員は配置しない。キッズ・プラザの見直しはしない。

こ えた

小枝ネット(ホームページ) <http://www.koeda-net.com/>

\*\*\*\*\*

### 近藤 さえ子 プロフィール

近藤正二(中野区議11期)の次女 北原小・十一中・吉祥女子高・和光大学卒 中野区議会議員(4期) 趣味:テニス

\*\*\*\*\*

こ えた

### 近藤 さえ子の小枝通信

発行:中野市民の会 編集:近藤さえ子事務所

TEL & FAX 03-3330-9584

E-mail saekokondo@mbh.nifty.com